

日本統治時期以降における台北市青田街の日式住宅の使用状況と増改築に関する考察

台湾の日式住宅における居住空間の変容過程に関する研究 その1

日本建築学会計画系論文集/ No. 628/ pp. 1189-1196 / 2008年6月

正会員 郭 雅 雯 君

本研究は、台湾で次第に取り壊されつつある都心部の日式住宅の、建設当初から現在までの住みこなしのプロセスをたどった研究として大変優れている。

これまでも、現存する旧日本植民地住宅の住まい方に関する研究は多数あったが、それらのほとんどは日本からの解放後の居住過程の分析を対象としていた。これに対し本研究は、戦前の居住者を探し出し、戦前戦後を通じた居住過程を描き出すことに成功していることがまず特筆すべき業績であるといえる。また、調査研究を通して対象とした住宅地の文化的価値を再発見し、その価値再発見の活動を現居住者とともに行っている姿勢が、現代的建築計画研究の在り方として、大変好感が持てる。

本研究の延長として展開されるであろう、居住過程についてのさらなる分析や、他の日式住宅既往研究との比較検討などを進めていく上での、しっかりとした基礎をつくりあげた研究として大いに評価できる。